

## JASMA 会報

2020年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

## CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
新年賀詞交歓会開催される	3
JIAM 2020出展者説明会開催	4
2019年第2回共通基盤ネットワーク研究会開催	4
第40回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

## 新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会  
会長 眞壁 八郎



明けましておめでとうございます。  
令和時代の年頭を迎えるに当たり、皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

はじめに、今年の国内景気は、昨年の消費増税前駆け込み需要があったものの、世界経済の減速に伴い輸出に頭打ち感がみられていることから、景気

は停滞感の強い状況が続くことが予想されます。製造業を中心に企業業績の低迷、消費増税後の先行き不透明感、自然災害リスクなどが懸念されます。また、世界景気も、米国・中国の貿易戦争は昨年12月に第一段階の合意があったものの、世界の貿易輸出入量が減少しており、さらには欧州主要国の政治的リスクも加わるなど不透明感が顕著になってきております。

縫製機械業界においては、米国の保護主義や利下げに伴う新興国通貨への影響に加えて、SDGs「持続可能な開発目標」に基づく衣料品の大量生産を見直す動きなどから、これまで発展して来た東南アジアのアパレル産業の市場動向には引き続き十分注意を払うべきだと考えます。一方、国内においては、働き方改革の進展、IoT及びデジタル技術の普及による事業運営の見直しも待ったなしの状況です。

このように、新たな国内外の状況や制度などがこれまで以上に顕在化し、我々縫製機械業界に影響を及ぼす年が2020年ではないかと考えております。2020年（令和2年）の十二支（じゅうにし）は「子（ねずみ）年」です。干支（えと）は「庚子（かのえね）」となります。庚子は、「次の波を作る年」となるとのことです。本年は、オリンピック・パラリンピック競技大会があります。また、5月には当工業会主催のJIAM展があります。これまで数年間にわたり、検討・準備してきたものの集大成の年となります。新時代にふさわしい明るい年に向け、当工業会は次の取り組みを主に実施いたします。

一つはJIAM 2020 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

会期を2020年5月20日（水）～23日（土）、場所をインテックス大阪4号館、5号館、6号館Bとして、「次世代技術と匠の技のコラボレーション ～JIAMから発信～」をテーマに開催いたします。JIAM展としては、12回目となります。本見本市は、「日本の最新技術を発信する場」であり、「課題解決やカイゼン活動に取り組んできた匠の技術」と「最新技術」を融合・協働することで、新たな付加価値を生み出す次世代の製品やシステムをご覧いただける場となります。

出展者数は、今回使用するインテックス大阪4・5・6号館Bのほぼ全ての展示スペースが確定しつつあり、多くの会員企業の出展に加え、多数の国内外縫製機械業界からの出展となりました。主催者セミナーも、国内縫製業の新たな取り組みや今後の動きなどの講演の他、アパレル業界におけるSDGs「持続可能な開発目標」（サステナブル）の取り組みの講演を予定しております。引き続き、縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。本年は、第40回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」という節目でありオリンピック・パラリンピック開催年に当たりますので、従来の応募に加えて、「スポーツ観戦に向けた応援グッズ・応援コスチューム」の募集も行いました。応募作品は、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品です。関係された先生、学校関係者、ご賛同いただいた皆様方のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月7日（土）に開催するとともに、「スポーツ観戦に向けた応援グッズ・応援コスチューム」の入賞発表を行い、2020年4月ホビーショーでの投票結果を経て、JIAM展での表彰を予定しております。私共としては、今後も本コンクールが、我が国の『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に寄与するため同事業のさらなる発展に努める所存です。

三つ目は、IoT、AI、ロボット、ビッグデータの活用による第四次産

業革命の時代を迎え、コネクテッド・インダストリーズへの対応です。

当工業会の「共通基盤ネットワーク研究会」の2年目は、「日本アパレル工業技術研究会」の協力を得て、アパレル、副資材、プリント、CAD/CAM、ミシン業界など関係者にお集まりいただき、縫製工場を取り巻くさまざまなデータ活用に向け必要となる縫製仕様書と縫製用語の標準化・共通化に向けた議論を行っており、年度内に取りまとめを行う予定です。

今後、縫製機器の接続にはCAD/CAM間のように、ミシンなど縫製機器が必要となる要件を抽出してそれぞれの用語の標準化が

重要であると感じております。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいり所存です。

令和2年が災害や事件のない穏やかな時代となることを祈念するとともに、本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感

令和2年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日本経済は、アベノミクスの進展により、長期にわたる回復を持続させており、GDPは名目・実質ともに過去最大規模に達しています。また、雇用・所得環境も改善し、景況感の地域間のばらつきも小さくなっているなど、地方経済は厳しいながらも前向きな動きが生まれ始めています。

他方、製造業を取り巻く環境は大きく変化しており、これに対する対応を進め、イノベーションを続けていく必要があります。

まずは、グローバル経済の変化への対応です。米中対立が顕在化し、保護主義的な動きが広がるなど、通商を巡る国際的な動向の中で、先行きの不透明さに対する懸念が広がっております。

これまで、日本は、TPP11や日EU・EPAを通じて、質の高い通商ルールを構築してまいりました。また、本年から、米国との日米貿易協定及び日米デジタル貿易協定も発効します。これからは自由貿易の旗手として、自由で公正なルールに基づく国際経済体制を主導する役割を果たしていきたいと考えております。

また、デジタル経済への急激な進展への対応が不可欠です。AIやIoTといったデジタル技術の進化により、新たな製品・サービスやビジネスモデルが生まれ、競争領域が広がるなど、企業を取り巻く競争環境は劇的に変化しています。

第4次産業革命時代に、日本が勝ち残り、世界をリードしていくためには、様々な業種や企業、人、機械が、データを介してつながる「Connected Industries」によって、様々な社会課題を解決し、新しい価値を生み出す「Society5.0」を世界に先駆けて実現することが重要な鍵となります。

日本の強みはものづくりの現場にあると言われてますが、その生産現場においてもデジタル技術の活用は不可欠です。これまでも、産業ロボットの導入や、工場内に見える化等により、世界最高レベルの生産性を誇っていますが、今後は、工場のみならず、開発設計段階と工場、工場と工場、工場と物流も含めた最適化が、競争領域になると考えております。「Connected Industries」の取組を、引き続き皆様と進めてまいりたいと思います。

さらに、少子高齢化に伴う中長期的な人手不足の問題の解決も必要です。特に製造業の現場では、熟練工など技術を持った人材の不足や、事業の後継者不足の問題が指摘されています。

経済産業省製造産業局

産業機械課長 玉井 優子

デジタル技術の活用に加え、ロボットや新たな機械の導入は、こういった問題を解決する一つの方策です。ロボットそのものの研究開発やロボットフレンドリーなど、環境の構築に取り組むとともに、中小企業向けの導入補助事業も強化していきます。あらゆる現場へのロボット導入などをサポートする人材育成にも取り組んでまいります。

外国人材の活用にも取り組む必要があります。昨年4月に改正入管法が施行され、製造業では、産業機械製造業分野、素形材産業分野、電気・電子情報関連産業分野において、特定技能外国人の受入れが開始されました。本年は海外での試験も開始予定であり、受け入れの拡大に向けた環境整備にも取り組んでまいります。

サプライチェーン全体での競争力強化を図る上では、企業間の取引の適正化も重要な課題です。産業機械業界では、業種別の自主行動計画の策定や、型管理の問題への対応や、働き方改革に伴うしわ寄せ防止などに向けた取組を進めて頂いておりますが、サプライチェーン全体で付加価値を生み出せるよう、引き続き、幅広い業界の方々とともに議論を深めていきたいと考えております。

また、福島の復興は、経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、福島県とともに、「福島イノベーション・コースト構想」の中核となる「福島ロボットテストフィールド(RTF)」の整備等に取り組んでいます。いよいよ今春に全面開所予定であり、産学官の関係者の皆さまに広く活用頂きたいと考えております。

さらに本年は、世界中のロボット関係者が一堂に集まる、「ワールドロボットサミット」を8月に福島、10月に愛知で開催致します。ロボットの研究開発及び社会実装を加速するための国際大会です。福島をロボットのイノベーションの中核地とすべく取り組んでまいります。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題にも多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、安定した成長を続けられると確信しております。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを政策に活かしていきたいと考えております。

本年が、皆様にとって素晴らしい1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 新年賀詞交歓会開催される

当工業会の2020年新年賀詞交歓会は、1月20日（月）13時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催しました。出席者は、経済産業省をはじめ各関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め115名で盛大に執り行われました。開会にあたり、当工業会の眞壁会長から次の挨拶がありました。

主要事業の一つはJIAM2020 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」で、2020年5月20日（水）から23日（土）までインテックス大阪4号館、5号館、6号館Bを使用し、「次世代技術と匠の技のコラボレーション～JIAMから発信～」をテーマに開催する。現時点において使用号館がほぼ埋まる状況である。主催者セミナーでは、国内縫製業の新たな取り組みや今後の動き、アパレル業界のサステナブルの取り組みなど盛りだくさんの内容である。来場誘致に向けて精力的に取り組むので当業界のみならず、関係機関のご支援、ご協力をお願いしたい。二つ目は第40回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールで、今回も素晴らしい力作やアイデアあふれる個性的な作品が多く寄せられ、来る3月7日（土）にこの会館で上位入選作品の表彰式を予定している。また今年のオリンピック・パラリンピックにちなみ、「スポーツ観戦に向けた応援グッズ・応援コスチューム」を募集したところ多くの作品が寄せられ、5月のJIAM展で上位3作品の表彰式を予定している。三つ目はコネクテッド・インダストリーズへの対応で、「共通基盤ネットワーク研究会」で縫製工場を取り巻く様々なデータ活用を検討し、必要となる縫製仕様書と縫製用語の標準化・共通化に向けた議論を行い、年度内に取りまとめを行う予定である。本年も会員相互のコミュニケーションの更なる充実を図り、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力する所存である。

続いて、ご来賓を代表して経済産業省 大臣官房審議官の大内聡殿から、貴工業会で取り組んでいるアパレル製品の製造工

程間のデータ連携による生産性向上を目指した議論が進み、成果が出ることを期待するとともに、5月のJIAM2020 OSAKAの成功が販路拡大の機会になることを期待すると挨拶がありました。

引き続き、海外からの来賓として、ドイツ機械工業連盟、縫製・皮革機械協会（VDMA）のシュトラウプ専務理事より、JASMAとVDMAの国際的協力関係が重要であり、両者の足並みを揃えることが縫製機械業界の成功を確保することになり、特に本年5月のJIAMは重要な役割を果たすことになる。

その後、当工業会の美馬副会長（JIAM2020実行委員長）から、JIAM2020 OSAKAは出展者や来場者にとっても魅力的でインパクトがあるショーにするため、最後の取り組みを行っている旨挨拶後、乾杯発声が行われ和やかな雰囲気でご歓談が行われました。

最後に久野副会長から、JIAM2020 OSAKAでは、「チームJAPAN」として日本の技術を世界へアピールしていきたい旨挨拶後、中締めが行われ盛況のうちに終了しました。



眞壁 八郎 会長



大内 聡  
大臣官房審議官



シュトラウプ  
専務理事



美馬 成望 副会長



久野 光康 副会長



## JIAM 2020出展者説明会開催(2019年12月17日(火))

当工業会が主催するJIAM 2020 OSAKA (国際アパレル機器&繊維産業見本市)の出展者説明会を2019年12月17日(火)、14時から16時までインテックス大阪におきまして開催しました。

当日は国内出展者40社、国内プレス4社、総勢53名が出席し、JIAM2020 OSAKAの開催概要、PRツール、出展マニュアル等について説明しました。また、閉会後は会場見学(希望者のみ)、施工関係協力会社による相談会等が行われました。今回使用するインテックス大阪4・5・6号館Bのほぼ全ての展示スペースが確定しつつあります。関係者の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。



## 2019年第2回共通基盤ネットワーク研究会開催



縫製仕様書及び縫製関連機器の用語について共通化を図るため、第2回共通基盤ネットワーク研究会を2019年12月3日(火)、14時から東海大学交友会館で開催しました。

当日は、CADメーカーから縫製用語を標準化した後に、運用を行うためのシステム案と用語共通化例を、また事務局から縫製仕様書用語中間報告書についてそれぞれ説明し、意見交換を行いました。出席者は事務局を含め47人でした。

## 第40回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第40回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は459校(前年526校)、応募点数は3,161点(前年3,645点)でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2020年3月7日(土)、13時30分より日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)で執り行います。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

また、表彰式では、「スポーツ観戦に向けた応援グッズ・応援コスチューム」の入選作品の発表を行います。

### 1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 26点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 32点
- 努力賞 190点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

### 2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校(計3校)

## 編集後記

2020年が始まりました。4年に一度のオリンピックが今年には日本で開催されるとあって、世界の目が東京に注がれています。また、オリンピックイヤーは当工業会が主催するJIAM展の年でもあり、こちらは世界の目が大阪に注がれています。そのJIAM展のテーマは“次世代技術と匠の技のコラボレーション”であり、サステナブルという考え方のもとで、ものづくりの新たな形を問い、世界に向けて発信するもの、と期待が膨らみます。(K.K.)

## JASMA 会報

Vol.16 No.4 2020年1月31日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会  
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004  
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階  
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>  
Eメール [info@jasma.or.jp](mailto:info@jasma.or.jp)

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。